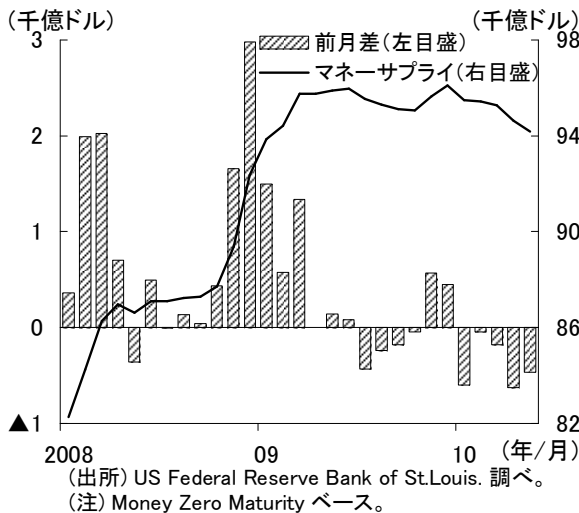


## 減少する米国マネーサプライ

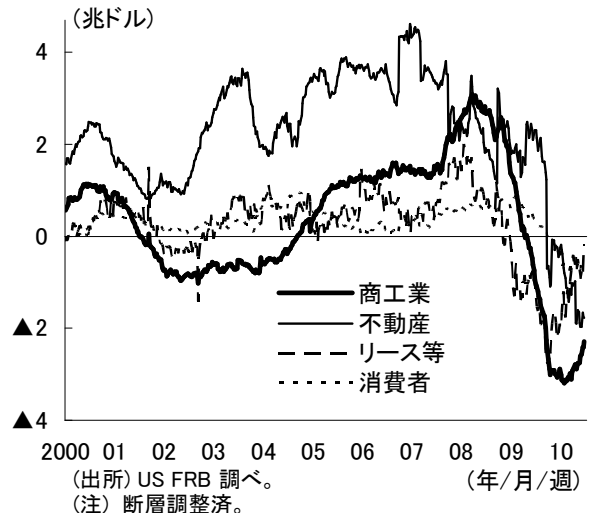
～ 増大する先行き不透明感 ～

- (1) 米国マネーサプライは、2008年末から09年初に大幅増加した後、一進一退で推移していたものの、10年に入り、減少傾向へ（図表1）。1～3月期には総じて09年水準でとどまっていたが、4月以降、減少傾向が鮮明に。マネーサプライは名目GDPと連動性大。景気の現状認識を再確認する必要。
- (2) マネーサプライ増減の主因の一つである金融機関の貸出動向をみると、このところ軟調な推移。すなわち、まず昨年に入りリース向けが減り、次いで年央に商工業向け、さらに年末には不動産・消費者向け貸出が減少へ（図表2）。根底には金融機関の金融仲介機能低下。ちなみに破綻銀行数は本年1～6月期に86行に上り、昨年同期の45行からほぼ倍増。
- (3) さらに長期的視点から貨幣の流通速度をみると、09年に入り既往最低水準へ（図表3）。背景には、住宅や商業用不動産価格の下落に伴う不良債権処理。構図は、わが国90年代と同様。ちなみにわが国は、不良債権処理が長引くなか、90年代半ば以降マネーサプライは再び増勢を取り戻したものの、流通速度が低迷し、名目GDPが長らく伸び悩み（図表4）。そうした経験を踏まえてみると、住宅販売促進税制が本年4月に打ち切りとなるなか、米国経済の先行きについて一段と慎重にみる必要。

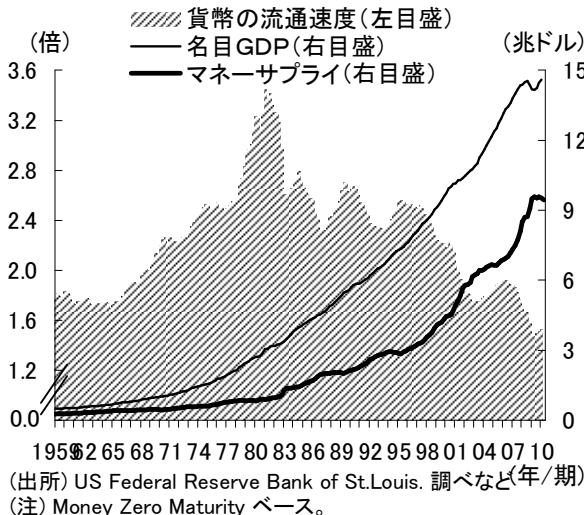
（図表1）米国マネーサプライの推移（季調済）



（図表2）米国商業銀行貸出の分野別推移（前年差）



（図表3）米国のGDPと、貨幣供給量・流通速度



（図表4）日本のGDPと、貨幣供給量・流通速度

